

2014年
3月号



発行：生活クラブ生活協同組合
発行責任：理事会
編集：広報委員会
茨城県牛久市猪子町 992-676
TEL 029-874-8510 FAX 029-874-3651
<http://ibaraki.seikatsuclub.coop/>

特集：パスタライズド牛乳

わたげ

消費材シリーズ

エコシュリンプ

生活クラブがエコシュリンプ（当時はブラックタイガー）の取組みを始めたのは1992年。エビ養殖地での環境問題や食品としての安全性問題などが顕在化しているときでした。

● エコシュリンプ取組みの背景

世界でエビの消費量がトップクラスの日本。甘エビなどを除き、大部分がベトナムやタイ、インドネシアなど東南アジア諸国から輸入。ところが、この日常的に食べているエビが、生産国でどのような問題を起こしているかを知る人は多くありませんでした。

高度経済成長期、輸出国である東南アジア地域ではトロール漁での天然エビの乱獲により資源枯渇の問題が発生。代わって効率を最優先させた集約型養殖が台湾をはじめ東南アジア各国に広がり、その影響による大規模なマングローブ林の伐採といった環境問題や、過密養殖による病気の発生⇒薬剤の多量投与という安全性の問題が明らかになりました。

この様な背景から、フィリピン・ネグロス島のバラゴンバナナの民衆取引に取組んでいた㈱オルター・トレード・ジャパン（ATJ）は、生活クラブを始めとする各生協などと共に、1992年からインドネシアでの粗放型養殖によるエビの取組みをスタートさせました。

● 環境保全と共に

この間、2004年に起きた異物混入事故発生を機に提携産地を複数個所に広げ、また事業方針も再確認されました。①環境保全型の事業であること ②生産者・加工業者・消費者各々との間で協同関係をつくること ③食品として安全性を追求すること…等5原則を定め「誰が何処でどう作ったか分かる」価値を大切にしています。

現在、産地はジャワ島東部の2地区、南部1地区の

合計3地区。地域によって取組みの経緯や生産環境は若干異なりますが、「稚エビを池に放流後、無給餌で、化学合成薬品無投与の条件を満たしている粗放養殖エビ」である事が共通の定義となっています。

● 粗放養殖エビって？

ジャワ東部では、300年以上前から伝統的に魚の養殖が盛んでした。その方法にエビの習性に合った工夫を重ね、地域の自然環境や人々の習慣を上手く組み合わせさせて「エコシュリンプ」は育てられています。

養殖池では、潮の干満や海水を利用して池の塩分濃度を調整したり、水草を堆肥化して発生させたプランクトンを餌にするなど、自然の力を生かして育てられています。人工飼料や抗生物質は一切与えられないことはなく、現地加工場でも一般的に使われている黒変防止剤や保水剤なども使用していません。

「エコシュリンプ」は、私たちの手元には一度も解凍・再冷凍せずに鮮度が保たれて届くのです。

● 市場では

量販店などでトレーに並べて販売されている冷凍品は、産地でブロック凍結され、国内で解凍し並べ直して再凍結されたものが殆んど。品質的に劣るため、リン酸塩を添加して肉質を改善したのも販売されています。（プリプリえび等と表示?）。解凍したときプーンと漂白剤の臭いがしたり、弾力がなくなって小さくなったりしています。

またバラ売り（有頭が多い）で販売されているものは、販売店が解凍し流水に浸けて販売するため、浸透圧により水で膨らんだものも多いようです。

組織概要		【牛久センター】		【水戸センター】	
(2014年1月末)	班組合員数 2,547人	1月世帯利用額	20,156円	牛久市猪子町 992-676	水戸市元石川町 302-12
組合員数 4,724人	戸配組合員 2,177人	1月総利用高	95,739千円	TEL 029-872-7521	TEL 029-291-8280
	班数 403班	12月世帯出資額	117,334円	FAX 029-872-7523	FAX 029-291-8281